

「異文化コミュニケーション論」

～理解と交流を進めるためのスキルを学ぶ～

東京外国語大学

岡田 昭人 准教授

1967年生まれ。同志社大学卒。ニューヨーク大学大学院、オックスフォード大大学院修了。99年、東京外国語大講師、2004年助教授。現在は総合国際学研究科准教授。専門は教育学。留学生を対象とした国際交流プログラムも担当。

異なる文化の人たちと交流する際、私たちの前に大きく立ちはだかるのが文化や習慣の壁。実は、言葉以上に、これらの壁が円滑なコミュニケーションや相互理解にブレーキをかける要因となります。そうした文化間の違いを理論化し、正しいコミュニケーションの方法を学ぶのが「異文化コミュニケーション論」です。具体的に、どのような問題が異文化間のコミュニケーションには存在しているのか。それを乗り越えるためには何が必要なのか。世界に向け大きく羽ばたこうとしている“必須の学問”について、東京外国語大学の岡田先生にわかりやすく解説していただきます。

- Chapter1 異文化コミュニケーションとは何か？
- Chapter2 異文化コミュニケーションを妨げるもの
- Chapter3 関連する様々な概念～非言語コミュニケーションなど
- Chapter4 改めて考える異文化コミュニケーションの重要性

Chapter1 異文化コミュニケーションとは何か？

育った場所が異なる人と会話をした際、話が噛み合わない経験をしたことがある人は多いでしょう。同じ日本人でもそうなのですから、国や文化が違えば受け止め方はもっともって違ってきます。第1章では、異文化コミュニケーションの定義に加え、何がコミュニケーションを妨げているのかなどを、モデルを使って解説します。ポイントは「ノイズ」。ノイズが円滑なコミュニケーションを妨げているのです。さらに、ここではどのように私たちは異なる文化に適応していくかについても学びます。

Chapter2 異文化コミュニケーションを妨げるもの

円滑なコミュニケーションを妨げている「ノイズ」。そのノイズを生み出しているのが、この章で詳しく紹介する「ステレオタイプ」や「スキーマ」です。「ステレオタイプ」も「スキーマ」も物事の認識や物事を記憶する際、とても重要な役割を果たしているのですが、誤った使い方をするといろいろと問題が生じるのです。たとえば、ある国の人たちに対して特定のイメージを抱いていることはあります。これがステレオタイプで、実際は間違ったイメージを抱いていることもあるのです。

Chapter3 関連する様々な概念～非言語コミュニケーションなど

コミュニケーションにおいては、言葉以外の部分も大きなウエートを占めています。たとえば、TPO など取り巻く状況をどう受け止めるかは文化によって異なりますし、表情、視線、ジェスチャーなどの使い方も日本人と西洋人では大きく異なります。これらもノイズになることがあり、逆にいえば、それらの違いをしっかりと理解することで、もっともってコミュニケーションは円滑になり、交流が深まります。では、具体的にどのようなものがあるのでしょうか。

Chapter4 改めて考える異文化コミュニケーションの重要性

最終章は全体のまとめ。会話、表情、多彩なジェスチャーなどが国や文化によって意味するものが違うなど、ポイントをしっかりと理解すれば、海外の人とのコミュニケーションは円滑になり、ますます交流は深まります。そのためにも学習とチャレンジが重要。とくに私たち日本人が心がけておくべき点を、わかりやすく例示しましたので、繰り返し勉強してください。